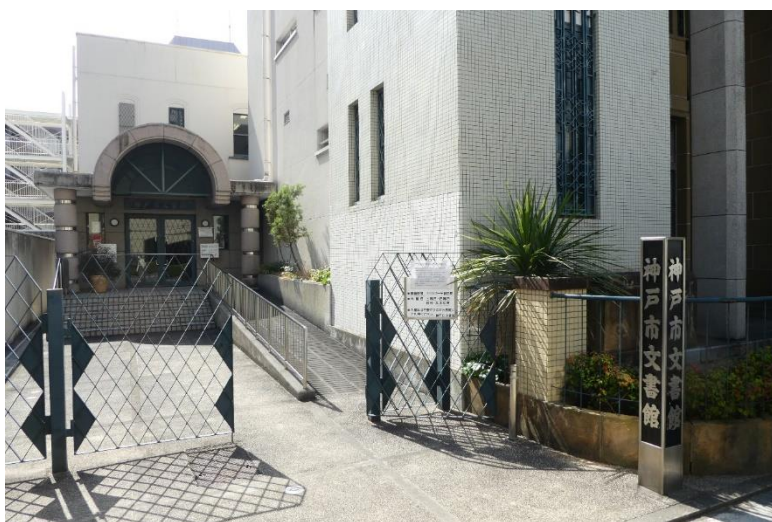
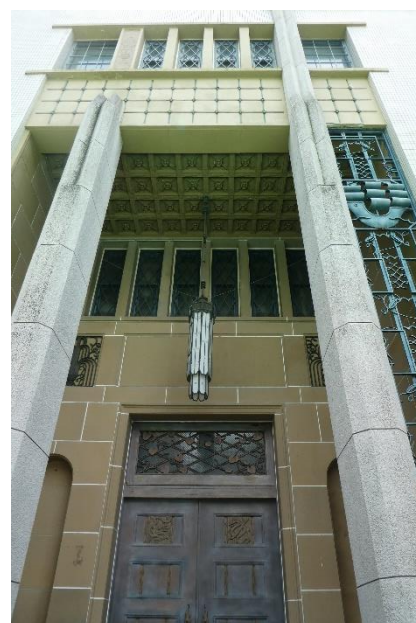


神戸市文書館と南蛮美術コレクション

熊内町1丁目にある神戸市文書館の建物は、もとは1938（昭和13）年に南蛮美術のコレクターとして有名な池永 孟（いけなが はじめ）氏が私設美術館として建てたものである。池永氏は1951（昭和26）年、建物と収蔵品を神戸市に寄贈し、市立神戸美術館となった。1965（昭和40）年からは市立南蛮美術館と名前を変え、数少ない南蛮美術センターとして親しまれてきたが、1982（昭和57）年、建物が手狭になったため、京町にある市立博物館に収蔵品を移して閉館した。その後、1989（平成元）年に神戸市文書館としてオープンし、市史の編さん作業の拠点となっている。また収蔵資料や図書などを一部公開し、歴史研究や郷土学習に市民が活用できる施設でもある。建物は、外壁にモザイク状のタイルを用い、正面のそで壁には南蛮船をシンボライズしたレリーフを設けるなど、1925年頃ヨーロッパで流行したアール・デコの影響がみられる。



外観



外観



閲覧室

※ 写真は神戸市文書館提供